

スキーをとおして障害を克服

障害は個性！ 自分に自信を持つとう！！

寺澤 武行 さん（双葉団地）

■スキーは必須科目

寺澤武行さんがスキーを始めたのは、防衛大学校在学中であった。「当時は、スキーといっても勉強の一環でした。むしろ訓練といったほうが良いかもしれません。それでも楽しかったので、夢中になって滑っていました」と当時のことを振り返る。大学卒業後の勤務地選びもスキーができるからと北海道を選んだほどである。その後14年間、陸上自衛隊員として北海道で勤務をした。「自衛隊のスキーは、オールマイティなスキーなんです。滑るだけでなく、歩くことも走ることまでしなければならぬ。そのおかげもあって技術は大分上達しましたね」と話す。北海道勤務時にはスキーの教官までしていたという。

それから、寺澤さんは、青森や盛岡、横須賀の駐屯地勤務を経て、平成6年に毛呂山町に越してきた。

■突然襲った足の痛み

寺澤さんは、55歳で定年になるま



寺澤 武行 さん (70)
(てらさわ たけゆき)

日本身体障害者スキー協会理事
埼玉県身体障害者スキー協会会長
全日本スキー連盟準指導員
全日本スキー連盟検定員

で、順風満帆に自衛官として勤務をしてきた。しかし定年後間もなく、急な右足の痛みに襲われた。「どうして、こんなに痛いのか訳も分からず、あちらこちらの病院にかかりました」と寺澤さん。そして最後に訪れた病院で、右足を切断しなければならぬことを告げられた。病名は「骨肉腫」。骨の癌である。「いきなり病名や切断の必要性を告げられ、切るか否か考える間もなく切ってしまった感じですね」と義足を外し、膝までしかない右足を見せてくれた。

■何をやりたいのか

足を切断してからは、苦しいリハビリが待っていた。段階を経てリハビリをこなしていた寺澤さんは、ある日、担当の先生に「この次は、何をすればいいのですか」と何気なく聞いた。ところがその先生は、「寺澤さんは何をやりたいのですか」と反対に聞き返されたという。その時、人から与えられることをこなすより、自らが欲して行うことの重要性を悟ったという。それから寺澤さんは、それまで以上にリハビリを積極的に行い、1年足らずで義足をはめてのスキーを開始するまでに至った。「やっぱり、スキーが一番良かったんですね」と笑顔で話す。

■自信を持てば世界が広がる

現在、国や県の身体障害者スキー協会で活躍する寺澤さんは、スキーを指導するかわら、子どもたちに障害を理解してもらおうための活動も行っている。「子どもたちには、色いろなことにチャレンジするように言ってます。そのなかで、できることがひとつでもあれば必ず自信につながるんです。自信が持てれば世界が広がります。そう私のように…」自らを包み隠さず見せ、気さくな話で子どもたちからも人気である。「障害は個性なんです。個性を生かして、少しでも社会に貢献していきたいですね」と語ってくれた。